

令和4年度 第3回学校運営協議会議事録

日時：令和5年2月18（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 視聴覚教室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、富永陽子

【校長・事務局】 高江洲良昌、山脇和美、藤山恵里、本管克江、森登紀子、
森佳希、藪麻智子

1. 校長挨拶

2. 議事

- ① 令和4年度学校経営計画及び評価(案)について
- ② 令和5年度学校経営計画及び評価(案)について
- ③ 令和5年度学校運営協議会の日程について
- ④ その他

<校長挨拶>

- ・令和4年度を振り返り、さまざまな学校行事等の教育活動をほぼ「フルサイズ」で実施することができたこと等を報告。

<議事>

①令和4年度学校経営計画及び評価(案)について

- ・本年度のここまでの取組みをまとめた資料をもとに、事務局より説明。

「高い志」を涵養するための取組み

「課題研究の充実」

今年度、生徒たちは82のテーマに取り組んだ。今年度も京都大学大学院からアドバイザーとして4名の大学院生に来ていただいた。GLHS合同発表会では、本校の代表チームが「大阪大学賞」を受賞、また、「ローズWAM祭り」では、男女共生、男女共同参画の趣旨にそったテーマを研究した4チームが研究の成果を発表させていただいた。

「グローバル」に視点を置いた取組み

12月に第1学年の生徒全員を対象に実施した「茨木ブラザーズ&シスターズプログラム」は、今年度もリモートであった。ぜひ、対面でできる取組みをと考え、「ワールドカフェ in 茨高」を企画・実施した。PTAの方でコーディネートしてくださる方がいらっしゃったことで、「茨木ブラザーズ&シスターズプログラム」の日の午後に、1・2年生の希望者

を募って、神戸大学の留学生との交流が実現した。

「英語イマージョンプログラム」は、1年生の希望者140名、2年生の希望者23名で、対面で、それぞれのプログラムを実施することができた。

「自主自律の精神」の育成

「地域とつながるこころの育成」

コロナ禍ではあるが、感染防止等に留意しながら、生徒たちは地域と連携した活動に取り組んでいる。今後も社会情勢を見据えつつ、活動の幅を広げていってくれるのではないかと期待している。

「教員の授業力向上」

「令和4年度授業アンケート」

例年との比較において、特に大きな変化は見られなかった。

「学校教育自己診断」

生徒版では、授業等におけるICT活用と、探究活動の充実についての項目を追加した。

ICT活用については、1年生に肯定的回答の割合が高かったことが特徴的であった。

委員：コロナ禍の中、よくやっていると思う。アンケートの数値が高い水準で維持されていることは良かった。

委員：大学との連携では、大学は高校側からのオファーによって動くことができるので、必要なことは、どんどん言ってもらえればと思う。

事務局：よろしく願いいたします。

委員：「ワールドカフェ in 茨高」等、対面で実施できるとやはり生徒たちが得るものも違ってくるのではないか。

事務局：「茨木ブラザーズ&シスターズプログラム」がリモートでの実施となり、なんとか対面での取組みを、ということで急遽立ち上げた企画であった。PTAの方のお力添えで、神戸大学の留学生に来ていただけることになったが、参加を希望した生徒たちが、どんどん自分たちで作り上げていった。ある留学生の方が感想として、茨木高校の教育の力についてコメントして下さったことが印象深い。また、当日コーディネートして下さっていたPTAの方のご都合がつかなくなった時、神戸大学に在学中の本校卒業生が、留学生の方のお世話等すべて引き継いでくれた。改めて、卒業生とのネットワークの強さを感じた。

委員：音楽会の「第九」の指導で、佐渡 裕氏が来校されたと聞いたが。

事務局：「サントリー一万人の第九」に昨年度、学校単位（音楽選択生）で動画を送り参加したことから注目していただいたと聞いている。今年度の「サントリー一万人の第九」の番組企画の一つとして、本校での「第九」の取組みを取材し、佐渡氏に直接生徒たちをご指導いただくという機会を得られ、生徒たちの演奏に魂が入った、という印象を受けた。（詳細は本校 WEB ページ「校長ブログ」をご覧ください）

委員：「学校教育自己診断」の ICT 活用の項目で、なぜ、学年によって数値に差がでたのか。

事務局：今年度からの項目なので、例年と比較することはできないが、1 年生の数値が高かったことについては、1 年生は小中学校から授業での端末利用を経験してきているので、高校でも 1 人 1 台端末を使うことに比較的慣れているのではないかとということ、また、アンケートのタイミングが、IBARAMA I の授業の中で、端末を多用している時期であったことも関係しているのではないかと考えている。

事務局：体育の実技でも、映像に撮って、他の生徒と分析し合い、理解を深めるということなども実施している。授業のさまざまな場面で効果的な ICT の利用を工夫している。

委員：茨高では、「e - ポートフォリオ」を利用しているのか。

事務局：本校では、「e フォリオ」という、オリジナルの様式で、生徒自身の活動を記録している。

② 令和 5 年度学校経営計画及び評価(案)について

* 校長より、変更点等を含め説明

- ・ コロナ禍であることを考慮して、令和 5 年度・6 年度も宿泊野外行事の行き先は国内であるが、時機を見て再び海外での実施を、と考えているので「中期的目標」では「海外宿泊野外行事…」としている。国内実施の間は、「海外研修プログラム」を企画できたら、とも考えている。
- ・ 目標として、数値の上では華々しいものはないかもしれないが、現状の数値や取組みを維持していくことを考えている。

委員：宿泊野外行事については、「海外」より「国内」のほうが、企画段階から生徒たち自身が関わることが多いのではないかと。

事務局：本校では「全員に海外体験の機会を与える」ということを方針としてきたので、実施可能になれば、海外宿泊野外行事を再開したいと考えている。「GLHS卒業生アンケート」に寄せられた意見でも、海外宿泊野外行事の体験はかなり大きなインパクトがあったことが伺え、「その体験が今に生きている」という声もあった。

委員：宿泊野外行事の行き先として、まだまだ海外をめざすのは難しい時期であると思われる。しかし、今だからこそ、リモート等で世界の国々とつながるチャンスがあるのではないかと。これからも、実際に現地に行けなくても、グローバルな問題意識を持ち続けることを意識して行ってほしい。

委員：女子生徒の「理系志向」はどうか。

事務局：学年によって全く違うが、「理系」を希望する生徒は、男女の別なく増えている。また、割合はすぐには答えられないが、「生活科学系」の学部をめざす女子生徒は増えている。

委員：以前は、女子で理系と言え、薬学部、農学部が多く、工学部等は少なかったように思うが、そう考えると現状は、理系をめざす女子生徒は増えているのではないかと。

事務局：本校では、いわゆる「文系」「理系」に分けるという発想がなく、3年生になっても文理混合のクラスである。また、男女別の割合もあまり意識されることはない。時々、大学やさまざまな団体等から、「理系をめざす女子」に向けての案内等があるが、ジェンダーという点から考えても、文・理、男・女と分けて考えることが時代にそぐわないように思う。

委員：以前は、企業のトップは「文系」出身というイメージであったが、最近は、「理系」出身でトップに立つ人が多くなってきている。茨高には、これからの社会のリーダーとなる人物を輩出してほしいし、生徒たちにもその期待を伝えてほしいと思う。

* 「令和5年度学校経営計画及び評価（案）」の「めざす学校像」「中期的目標」について承認。

④ その他 特になし

⑤ 令和5年度学校運営協議会の日程について（予定）

第1回 令和5年6月10日(土) 14:00～16:00

第2回 令和5年10月7日(土) 14:00～16:00

第3回 令和6年2月17日(土) 14:00～16:00